

1 目的

(1) 指導力向上

特別支援教育を理解するために、専門的な指導を通して、教員個々の資質向上を図ります。

(2) 豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

2 内容

(1) 指導力向上

ア 特別支援教育を理解するために、長谷川修三先生（元津島市立南小学校校長）を講師に招き現職教育を行いました。（8／3）

イ 来年度に向けた教科指導について、鈴木一成先生（愛知教育大学教授）を講師に招き、教科指導（保健体育）を実施しました。（11／30）

(2) 豊かな人間性の育成

ア 生徒が、合唱を通して人々に感動を与え、達成感を味わうこと、さらに教師が専門的な合唱指導にふれることで教科指導のスキルアップを図るため、照喜名純子先生（照喜名一男先生奥様）を講師に招き、合唱指導（10／20～22）を実施しました。

イ 命の大切さや尊さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、伊藤幸子氏（名古屋医専教務部主事）を講師に招き、命の授業（11／24・25）を実施しました。

ウ 互いに認め合い、尊重し合う心の育成を図るために、大野壽子さん（メイク・ア・ウィッシュオブジャパン理事）を講師に招き、人権講演会（11／11）を実施しました。



1年命の授業

3 評価

(1) 指導力向上

ア 毎年、学校評価アンケートの結果を見ると、教師・生徒共に道徳の授業に対する意識が低く、取組も十分ではありません。また、保護者の学校評価アンケートの結果もポイントが低くなっています。そのような中、新学習指導要領では、道徳教育の充実が叫ばれています。

(2) 豊かな人間性の育成

ア 照喜名純子先生の指導はたいへん熱心で、少しでも子ども達の良さを引き出そうと一生懸命に指導をしていただきました。合唱指導を受けた生徒たちは、合唱コンクールの合唱で、調和のとれた歌声を披露し、聴く人に感動を与えることができました。特に、毎年の積み上げが3年生の素晴らしい合唱となって成果を上げています。本年度の学校評価の保護者意見にも、合唱のすばらしさや、上手だという意見も多く寄せられました。

イ 「命の授業」は、毎年1年生を対象として行っています。伊藤先生の指導は大変丁寧でわかりやすく、子どもたちに命の大切さや生命誕生のすばらしさを教えてくださいました。また、助手として多くの学生を連れて指導に当たっていただきました。生徒の感想では、「今回の授業を受けて、自分が産まれてきたことは奇跡的なことで、凄いことなんだとあらためて思いました。」「大変な思いをして産んでくれたお母さんに感謝し、すごい確率で産まれてきた自分の命を大切にするとともに、他人の命も大切にしようとする声は聞かれました。また、自分や他人を大切にすることを育てることができたようです。

ウ 『夢に向かって一緒に走ろう』

難病と闘う子どもの夢をかなえる手伝いをする、メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン理事である、大野壽子さんに講演をしていただきました。障がいをもつ子供の夢の実現を支援する活動についての話を聴き、障がいの有無に関わらず、夢をもち、実現させようと努力することの大切さについて学ぶ講演会となりました。

大野壽子さん



4 課題

保護者や生徒、地域からの信頼を得るためには、教育活動のさらなる向上や発展を目指さなければなりません。特色ある学校づくり推進事業により、生徒はさまざまな取組を通して体験から学ぶ機会が増えました。今後は、学んだことを活用する場や学びを通して、自己の成長が実感できる振り返りの場などを工夫し、さらに生徒の自己肯定感を高め、主体性を伸ばしていくことが課題であると考えます。

また、今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のために授業や部活動、学校行事が様々な制約のもとで行われました。そのために、新型コロナウイルス感染症に関してつらさを抱えた生徒がいる可能性も考えられます。このような日々変化する社会的な事象や問題でつらさを抱える生徒にも気づき、配慮、支援できる学校体制や教員集団を作り上げていくことも大切だと考えます。

次年度以降も引き続き、「当たり前が当たり前のできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。